

# ロスプリベンションへの道4 協働防犯(12)

## 対談「AI実装に向け、その障壁を突破せよ！」

### NPO法人 全国万引犯罪防止機構

登壇者

- セーフィー株式会社 営業本部 佐伯 隆高
- 株式会社アラ プロダクト事業本部 営業部 山下 勝也
- 日本電気株式会社 パイオネリクス・ビジョンAI統括部 田中 俊彦
- 同社:工業会日本万引防止システム協会(JEAS) 会長 稲本 義範

毎に実施しています。実地にあたっては日本自動車防犯システム協会のご協力をいただき、弊方の会員外を含めて実施してまいります。

本日の資料にはありませんが、EAS(万引防止システム)は堅固な市場を持ち、海外でも提供されています。その一方で、AI実装による利点や運用の際の留意点などについては関係各々の理解が進んでいるとは言えない。こうした現状を踏まえ、セキユリティ産業新聞では工業会日本万引防止システム協会(JEAS)にその普及啓蒙を提案した結果、JEASの協力を得て紙面対談が実施された。今号ではその内容を紹介します。

田中: 私は生体認証やAIなどの製品を扱っている部門にあり、各社から組み合わせたソリューションを構築している。その中で、AIと映像を用いることで、様々な分析を実現している。AIとLLMを組み合わせると、AIが解析し、LLMと連携して報告書を作成まで自動化できる。また、AIが解析した結果をLLMで要約して、人間が確認できるようにしている。AIとLLMの組み合わせは、AIの解析結果をLLMで要約して、人間が確認できるようにしている。AIとLLMの組み合わせは、AIの解析結果をLLMで要約して、人間が確認できるようにしている。

稲本: これからはAI利用に必要なデータガバナンスについてお聞きします。佐伯: セーフィーでは、映像プラットフォームのリーディングカンパニーとして、お客様・パートナー・社会に対して責任が高まってきた。2022年に、外部の有識者を招きデータ憲章を制定し公表を行いました。また、映像プラットフォームのリーディングカンパニーとして、お客様・パートナー・社会に対して責任が高まってきた。2022年に、外部の有識者を招きデータ憲章を制定し公表を行いました。

顔認証システムの設置店舗数 5年で5・7倍

年	店舗数
2019年	315
2020年	511
2021年	997
2022年	1,094
2023年	1,781

AIシステムの設置店舗数 4年で1・8倍

年	店舗数
2019年	48,600
2020年	89,827
2021年	97,876
2022年	139,924
2023年	181,620

セーフィー株式会社 佐伯 隆高氏

最初に各社概要について紹介させていただきます。私どもは、セーフィー株式会社として、AI実装に向けた取り組みを進めています。

山下: 当社は2015年に設立し、現在10期目の会社です。元々はAIを活用した受託開発をメインで行っていました。AIと映像を用いることで、様々な分析を実現している。AIとLLMを組み合わせると、AIが解析し、LLMと連携して報告書を作成まで自動化できる。また、AIが解析した結果をLLMで要約して、人間が確認できるようにしている。AIとLLMの組み合わせは、AIの解析結果をLLMで要約して、人間が確認できるようにしている。

田中: 私は生体認証やAIなどの製品を扱っている部門にあり、各社から組み合わせたソリューションを構築している。その中で、AIと映像を用いることで、様々な分析を実現している。AIとLLMを組み合わせると、AIが解析し、LLMと連携して報告書を作成まで自動化できる。また、AIが解析した結果をLLMで要約して、人間が確認できるようにしている。AIとLLMの組み合わせは、AIの解析結果をLLMで要約して、人間が確認できるようにしている。

稲本: 今日「AI実装に向け、その障壁を突破せよ」というテーマで新しい会員を集めてもらいました。最初に6月7日の工業会JEASの通常総会で発表された『2023年万引防止システムの市場規模に関する調査報告書』について説明いたします。この調査は、万引き防止システム(EAS: Electronic Article Surveillance)電子商品監視 機器、顔認証システム、AIシステムなどの市場規模を把握し、今後の万引き防止システムの普及促進のための基礎資料に資することを目的とした調査で2年

顔認証システムの設置店舗数 5年で5・7倍

年	店舗数
2019年	315
2020年	511
2021年	997
2022年	1,094
2023年	1,781

AIシステムの設置店舗数 4年で1・8倍

年	店舗数
2019年	48,600
2020年	89,827
2021年	97,876
2022年	139,924
2023年	181,620

セーフィー株式会社 佐伯 隆高氏

最初に各社概要について紹介させていただきます。私どもは、セーフィー株式会社として、AI実装に向けた取り組みを進めています。

山下: 当社は2015年に設立し、現在10期目の会社です。元々はAIを活用した受託開発をメインで行っていました。AIと映像を用いることで、様々な分析を実現している。AIとLLMを組み合わせると、AIが解析し、LLMと連携して報告書を作成まで自動化できる。また、AIが解析した結果をLLMで要約して、人間が確認できるようにしている。AIとLLMの組み合わせは、AIの解析結果をLLMで要約して、人間が確認できるようにしている。

稲本: 今日「AI実装に向け、その障壁を突破せよ」というテーマで新しい会員を集めてもらいました。最初に6月7日の工業会JEASの通常総会で発表された『2023年万引防止システムの市場規模に関する調査報告書』について説明いたします。この調査は、万引き防止システム(EAS: Electronic Article Surveillance)電子商品監視 機器、顔認証システム、AIシステムなどの市場規模を把握し、今後の万引き防止システムの普及促進のための基礎資料に資することを目的とした調査で2年

顔認証システムの設置店舗数 5年で5・7倍

年	店舗数
2019年	315
2020年	511
2021年	997
2022年	1,094
2023年	1,781

AIシステムの設置店舗数 4年で1・8倍

年	店舗数
2019年	48,600
2020年	89,827
2021年	97,876
2022年	139,924
2023年	181,620

セーフィー株式会社 佐伯 隆高氏

最初に各社概要について紹介させていただきます。私どもは、セーフィー株式会社として、AI実装に向けた取り組みを進めています。

山下: 当社は2015年に設立し、現在10期目の会社です。元々はAIを活用した受託開発をメインで行っていました。AIと映像を用いることで、様々な分析を実現している。AIとLLMを組み合わせると、AIが解析し、LLMと連携して報告書を作成まで自動化できる。また、AIが解析した結果をLLMで要約して、人間が確認できるようにしている。AIとLLMの組み合わせは、AIの解析結果をLLMで要約して、人間が確認できるようにしている。

#### 店舗領域の省人化をお手伝い

防犯のみならず、映像プラットフォームを活用した小売/サービス業界向けソリューションの拡充を推進

今後のさらなるソリューション拡大に向けて検討中

#### 独自開発による「行動認識AI」技術のバイオニア

映像から人の行動を検知

事故や犯罪を未然に防ぐ

ヒトの行動を予測

#### 不適切利用の防止に営業ルール

顧客企業による不適切利用を以下の手法で防止

- 顧客提案前に提案先や営業資料の内容確認を営業/ESG/企画で実施。
- 目的外利用の例や他社の炎上事例を説明する資料を用いて顧客にリスクを説明。
- 当社から顧客にチェックリストを提供。不備あれば対応方法を指導。
- 不適切利用が発覚した場合、サービス利用規約に則り利用停止する。

#### フロー図のイメージ

	消費者(利用者)	A事業者	B委託先
収集	アプリケーションから個人情報(氏名、生年月日、顔写真、...)の入力		
保管・利用・提供		データベースへの格納・編集	データの提供(ID、顔写真、...)
廃棄		データの分析	データの分析
		分析結果の編集	ID、分析結果の送付
		サービスの提供	
		サービス提供後10月以内廃棄	A事業者へ送付後、廃棄

#### 映像解析×LLMで報告書の作成業務を自動化

映像とテキスト双方を扱うNEC独自のファウンデーションモデルを活用して様々なDXを推進

田中: 私は生体認証やAIなどの製品を扱っている部門にあり、各社から組み合わせたソリューションを構築している。その中で、AIと映像を用いることで、様々な分析を実現している。AIとLLMを組み合わせると、AIが解析し、LLMと連携して報告書を作成まで自動化できる。また、AIが解析した結果をLLMで要約して、人間が確認できるようにしている。AIとLLMの組み合わせは、AIの解析結果をLLMで要約して、人間が確認できるようにしている。

稲本: これからはAI利用に必要なデータガバナンスについてお聞きします。佐伯: セーフィーでは、映像プラットフォームのリーディングカンパニーとして、お客様・パートナー・社会に対して責任が高まってきた。2022年に、外部の有識者を招きデータ憲章を制定し公表を行いました。また、映像プラットフォームのリーディングカンパニーとして、お客様・パートナー・社会に対して責任が高まってきた。2022年に、外部の有識者を招きデータ憲章を制定し公表を行いました。

田中: 私は生体認証やAIなどの製品を扱っている部門にあり、各社から組み合わせたソリューションを構築している。その中で、AIと映像を用いることで、様々な分析を実現している。AIとLLMを組み合わせると、AIが解析し、LLMと連携して報告書を作成まで自動化できる。また、AIが解析した結果をLLMで要約して、人間が確認できるようにしている。AIとLLMの組み合わせは、AIの解析結果をLLMで要約して、人間が確認できるようにしている。

稲本: 今日「AI実装に向け、その障壁を突破せよ」というテーマで新しい会員を集めてもらいました。最初に6月7日の工業会JEASの通常総会で発表された『2023年万引防止システムの市場規模に関する調査報告書』について説明いたします。この調査は、万引き防止システム(EAS: Electronic Article Surveillance)電子商品監視 機器、顔認証システム、AIシステムなどの市場規模を把握し、今後の万引き防止システムの普及促進のための基礎資料に資することを目的とした調査で2年

稲本: 今日「AI実装に向け、その障壁を突破せよ」というテーマで新しい会員を集めてもらいました。最初に6月7日の工業会JEASの通常総会で発表された『2023年万引防止システムの市場規模に関する調査報告書』について説明いたします。この調査は、万引き防止システム(EAS: Electronic Article Surveillance)電子商品監視 機器、顔認証システム、AIシステムなどの市場規模を把握し、今後の万引き防止システムの普及促進のための基礎資料に資することを目的とした調査で2年

稲本: 今日「AI実装に向け、その障壁を突破せよ」というテーマで新しい会員を集めてもらいました。最初に6月7日の工業会JEASの通常総会で発表された『2023年万引防止システムの市場規模に関する調査報告書』について説明いたします。この調査は、万引き防止システム(EAS: Electronic Article Surveillance)電子商品監視 機器、顔認証システム、AIシステムなどの市場規模を把握し、今後の万引き防止システムの普及促進のための基礎資料に資することを目的とした調査で2年

稲本: 今日「AI実装に向け、その障壁を突破せよ」というテーマで新しい会員を集めてもらいました。最初に6月7日の工業会JEASの通常総会で発表された『2023年万引防止システムの市場規模に関する調査報告書』について説明いたします。この調査は、万引き防止システム(EAS: Electronic Article Surveillance)電子商品監視 機器、顔認証システム、AIシステムなどの市場規模を把握し、今後の万引き防止システムの普及促進のための基礎資料に資することを目的とした調査で2年